

## 学長定例記者会見要項

日 時：平成28年12月6日(火) 11:00～11:45

場 所：法人本部第二会議室(小白川キャンパス法人本部棟4階)

### 発表事項

1. 教授の着任について
2. 「国立大学法人山形大学の平成27年度に係る業務の実績に関する評価結果」について
3. 平成28年度科学技術人材育成費補助事業「卓越研究員事業」における卓越研究員の決定について
4. 山形大学優秀教育者賞受賞者が決定しました
5. 教師教育における高大接続と市民によるプラットフォームづくり  
— 第6回やまがた教員養成シンポジウムの開催 —

### お知らせ

1. 山形在来作物研究会公開フォーラムのお知らせ
2. 「知の拠点庄内」第6回シンポジウム『海外からみた庄内』の開催
3. 大学を通じた地方創生～山形の「知・技術・ひと」の融合による産業イノベーション～の開催

(参 考)

○ 次回の学長定例記者会見(予定)

日 時：平成28年12月20日(火) 11:00～11:45

場 所：法人本部第二会議室(小白川キャンパス法人本部棟4階)

## 学長定例記者会見(12月6日)発表者

### 1. 教授の着任について

学長

学術研究院 教授(ものづくり技術経営学)

こやま きよひと  
小山 清人

たなか よういちろう  
田中 陽一郎

### 2. 「国立大学法人山形大学の平成27年度に係る業務の実績に関する評価結果」について

学長

こやま きよひと  
小山 清人

### 3. 平成28年度科学技術人材育成費補助事業「卓越研究員事業」における卓越研究員の決定について

学長

学術研究院 准教授

学術研究院 助教

こやま きよひと  
小山 清人

まつい ひろゆき  
松井 弘之

とがし たかなり  
富樫 貴成

### 4. 山形大学優秀教育者賞受賞者が決定しました

学長

こやま きよひと  
小山 清人

### 5. 教師教育における高大接続と市民によるプラットフォームづくり

#### — 第6回やまがた教員養成シンポジウムの開催 —

学術研究院 准教授(地域教育文化学部担当)

地域教育文化学部4年

//

東北文教大学1年

もりた ともゆき  
森田 智幸

まえざわ りょう  
前澤 稜

とみづか たくみ  
富塚 匠

しばた るな  
柴田 留奈

平成28年12月6日  
山形大学

## 教授の着任について

山形大学では、平成27年4月からすべての教員が学術研究院に所属しております。平成28年11月1日付で教授が1名着任しましたので、お知らせします。

本学では、すべての教員が学術研究院に所属し、各学部・研究科等における教育課程の担当として学部・研究科等に配置されております。

このたび、本学に新たに採用になった教員を広く皆様に知っていただくため、教授採用人事について、学長定例会見でお知らせいたします。

■ 田中 陽一郎（たなか よういちろう）

採用年月日：平成28年11月1日

専門分野：ものづくり技術経営学、電子工学、コンピュータ工学

（お問合せ先）

総務部人事課 阿部

電話 023-628-4023

平成28年12月6日  
山形大学

## 「国立大学法人山形大学の平成27年度に係る 業務の実績に関する評価結果」について

11月15日に国立大学法人評価委員会が本法人の平成27年度に係る業務の実績に関する評価結果を公表しました。

山形大学の平成27年度に係る業務の実績に関する評価結果については、別紙のとおりです。


また、本学の評価は、評価項目である「業務運営の改善及び効率化」、「財務内容の改善」、「自己点検・評価及び情報提供」、「その他業務運営」の4項目全てにおいて、評定4の「中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」と評価されました。

なお、全国の大学における本学の位置付けと本学のこれまでの評価結果の推移をまとめると以下のとおりとなります。

### 全国国立大学法人の評価結果の分布

#### ○平成27年度に係る業務の実績に関する評価

	業務運営の改善 及び効率化	財務内容の改善	自己点検・評価 及び情報提供	その他業務運営 (施設設備の整備・活用 等、安全管理、法令遵守)
特筆すべき進捗状況にある (評定5)	2法人 (2%)	2法人 (2%)	0法人 (0%)	1法人 (1%)
順調に進んでいる (評定4)	73法人 (81%)	88法人 (98%)	89法人 (99%)	79法人 (87%)
おおむね順調に進んでいる (評定3)	14法人 (16%)	0法人 (0%)	1法人 (1%)	5法人 (6%)
やや遅れている (評定2)	1法人 (1%)	0法人 (0%)	0法人 (0%)	5法人 (6%)
重大な改善事項がある (評定1)	0法人 (0%)	0法人 (0%)	0法人 (0%)	0法人 (0%)

 は、山形大学の評価結果

## 山形大学の評価結果推移一覧表

	第1期中期目標期間								第2期中期目標期間						
	H16	H17	H18	H19	H16-19 【暫定評価】	H20	H21	第1期 【最終評価】	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
業務運営の改善及び効率化	3	4	4	3	4	3	5	4	4	4	4	4	4	4	
財務内容の改善	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供	3	4	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
その他業務運営 (施設整備・安全管理等)	4	4	4	4	4	4	4	3	4	4	4	4	4	4	

### (評定)

5	中期計画の達成に向けて <u>特筆すべき進捗状況にある</u> (国立大学法人評価委員会が特に認める場合)
4	中期計画の達成に向けて <u>順調に進んでいる</u> (すべてⅣまたはⅢ)
3	中期計画の達成に向けて <u>おおむね順調に進んでいる</u> (ⅣまたはⅢの割合が9割以上)
2	中期計画の達成のためには <u>やや遅れている</u> (ⅣまたはⅢの割合が9割未満)
1	中期計画の達成のためには <u>重大な改善事項がある</u> (国立大学法人評価委員会が特に認める場合)

### 注)

国立大学法人及び大学共同利用機関法人の第2期中期目標期間における各年度終了時の評価に係る実施要領（平成22年6月28日国立大学法人評価委員会決定）から

Ⅳ：中期計画を上回って実施している

Ⅲ：中期計画を十分に実施している

Ⅱ：中期計画を十分には実施していない

Ⅰ：中期計画を実施していない

## 山形大学の「注目」される主な取組【平成27年度】

文部科学省が取りまとめた資料の中で、以下の項目が注目される取組として取り上げられました。

### 1. 大学の機能強化に向けた取組の状況

#### ○「学術研究院」の設置

教員の所属を一元化し柔軟な教員集団を形成することにより、より高度な教育、研究、診療及び社会貢献の推進を目的とする「学術研究院」を設置するとともに、学長のリーダーシップの下で大学の機能を最大化できるガバナンス体制を構築するため、経営組織と教学組織の役割の明確化並びに学長、理事等の職務権限及び責任の明確化を図っている。

### 2. 自己点検・評価及び第三者評価

#### ○「部局評価結果に応じたインセンティブ経費の配分とその成果の検証」

部局の取組を適正に評価することで教育研究活動を推進するため、部局年度業績評価について達成度評価を加味した総合評価に改め、各部局へ項目ごとの評価をレーダーチャートにして通知するとともに、評価結果に応じてインセンティブ経費（総額3,600万円）を配分している。また、インセンティブ配分経費による取組の成果を検証するため、平成22年度以降の実績を調査し、経営協議会において報告している。

### 3. 教育研究活動を通じた地域貢献

#### ○「地域活性化に向けた産学金連携強化」

国際事業化研究センターにおいて、地域の金融機関職員を産学金連携コーディネータ（49名）、シニアコーディネータ（13名）として養成しているほか、企業のOB等をシニアインストラクターとして養成し、ものづくり産業シニア人材活用事業を通じて中小企業等12社に派遣している。

### 4. 附属病院の機能の充実・強化 「診療面」

#### ○「低侵襲な内視鏡手術実現に係る取組」

「先端内視鏡手術センター」を設置しており、安全で確実、低侵襲な医療を開拓・確立・実施し、内視鏡手術を行うすべての診療科を統括し院内における内視鏡手術のガバナンスを担当するとともに、内視鏡手術のコンセプトや技術を若い医師に伝達教育するなど、内視鏡手術の実施体制を強化している。また、WHOが難病として取り上げている「難聴」を、内視鏡を用いて低侵襲で治療するための器具及び術式の開発を推進し、毎年150名程度の治療を行っている。

（お問合せ先）

山形大学企画部企画課

電話 023-628-4192

Mail: kikadai@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

## 平成27年度に係る業務の実績に関する評価結果 国立大学法人山形大学

### 1 全体評価

山形大学は、「自然と人間の共生」をテーマとして、学生教育を中心とする大学創り、豊かな人間性と高い専門性の育成、「知」の創造、地域及び国際社会との連携並びに不断の自己改革の基本理念に沿って、教育、研究及び地域貢献に取り組み、キラリと光る存在感のある大学を目指している。第2期中期目標期間においては、学士課程教育を通じ、自律した一人の人間として力強く生き、他者を理解し、ともに社会を構成していく力を養うこと等を目指している。

この目標達成に向け、学長のリーダーシップの下、組織的なFDの実施を通じて授業方法の改善等につなげるとともに、産学金連携コーディネータ育成事業や地域ものづくりインストラクター養成スクールの実施により地域活性化を図るなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

#### 大学の機能強化に向けた取組の状況について

教員の所属を一元化し柔軟な教員集団を形成することにより、より高度な教育、研究、診療及び社会貢献の推進を目的とする「学術研究院」を設置するとともに、学長のリーダーシップの下で大学の機能を最大化できるガバナンス体制を構築するため、経営組織と教学組織の役割の明確化並びに学長、理事等の職務権限及び責任の明確化を図っている。

## 2 項目別評価

### <評価結果の概況>

	特筆	順調	おおむね 順調	やや遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化		○			
(2) 財務内容の改善		○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供		○			
(4) その他業務運営		○			

### I. 業務運営・財務内容等の状況

#### (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

#### ○ 全学的な労働生産性向上に係る取組

すべての事務組織を対象にした「山形大学労働生産性向上プロジェクト」を展開しており、全課長が改善リーダーとなって労働生産性向上ミーティングを実施し、各職場における改善・問題点等の抽出とその対応について検討している。検討結果を基に日常業務の改善及び業務処理の簡素化に取り組み、業務運営体制の見直しを実施している。

#### ○ 意欲的な学長行動指針の作成と周知

より高い数値目標やより具体的な目標を設定した学長行動指針「Annual Plan 2015」を策定し、教職員、新入生及びその保護者等に配付(約8,500部)するとともに、在学生等を含めた図書館利用者が広く閲覧できるように各図書館に置くことで、行動目標を広く学内外に周知している。



## (2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

### ○ 科研費の獲得増に向けた支援の充実

「科研費研究計画調書に関するアドバイザー制度」や、外部資金により獲得した間接経費の額に基づく「研究推進報奨制度」等の競争的資金獲得のための支援を充実させたことにより、科研費の受入総額は、8億4,000万円（対前年度比5,300万円増）となっている。

### ○ 基礎研究と開発を両輪とした活動による共同研究・受託研究の増加

有機エレクトロニクス研究センター（ROEL）における基礎研究、有機エレクトロニクスイノベーションセンター（INOEL）における産業化に向けた基盤技術等の開発が両輪となって活動することにより、共同研究の受入件数は361件（対前年度比24件増）、受入額は9億9,200万円（同比3億2,600万円増）、受託研究の受入件数は425件（同比17件増）、受入額は4億8,700万円（同比8,000万円増）となっている。

## (3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

### ○ 部局評価結果に応じたインセンティブ経費の配分とその成果の検証

部局の取組を適正に評価することで教育研究活動を推進するため、部局年度業績評価について達成度評価を加味した総合評価に改め、各部局へ項目ごとの評価をレーダーチャートにして通知するとともに、評価結果に応じてインセンティブ経費（総額3,600万円）を配分している。また、インセンティブ配分経費による取組の成果を検証するため、平成22年度以降の実績を調査し、経営協議会において報告している。

## ○ 学内マネジメント等に関する情報共有を推進

新ファクトブックシステムであるIR-Plusにダウンロード機能を付与し、ユーザーが常時利用できる仕組みを導入しているほか、新システムとして導入したVisual Analyticsを活用し、各学部の基礎的な分析及び各学部からの依頼に基づく分析として約100レポートを作成するなど、各学部の意思決定の支援を行っている。

### (4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守

**【評定】** 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成26年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われていること等を総合的に勘案したことによる。

## II. 教育研究等の質の向上の状況

平成27年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

### ○ アンケート結果のフィードバックによる授業方法等の改善と連携校への展開

授業改善アンケートを始めとする多層的なアンケート調査等を実施し、その分析結果を教員にフィードバックするとともに、組織的なFDの実施を通じて授業方法の改善等につなげている。また、これらの取組は、東日本エリアに所在する52の大学・短大・高専が加盟するFDネットワーク「つばさ」を通じて、連携校におけるSD・FD、IR機能の強化を図り、教育の質保証につなげている。

### ○ 地域活性化に向けた産学金連携強化

国際事業化研究センターにおいて、地域の金融機関職員を産学金連携コーディネータ(49名)、シニアコーディネータ(13名)として養成しているほか、企業のOB等をシニアインストラクターとして養成し、ものづくり産業シニア人材活用事業を通じて中小企業等12社に派遣している。

### ○ アンデス諸国との国際交流の推進

短期派遣事業として13名の学生をペルー、ボリビア、チリの3か国に派遣し、アンデス諸国における資源開発の現状や問題点、日系社会への理解、環境保全への対応等について現地で学習しているほか、「YU 海外研究グローイングアッププログラム」を通じて、計3名の研究者を海外に派遣するなど、国際交流を推進している。

## 附属病院関係

(教育・研究面)

### ○ 全県レベルでのゲノムコホート研究の推進

これまでに山形県内で実施したゲノムコホート研究の発展的拡大に向けて、県内の各市町村で当初目標であった2万人の研究協力者を集めて得られたデータを基に、全県レベルでのがん・循環器疾患登録事業、保険診療情報及び行政情報とのデータの照合を進め、コホート研究として解析を行っている。

(診療面)

### ○ 最先端手術室の設置による血管内治療の推進

多軸可動型透視撮影装置を有する最先端ハイブリッド手術室を設置し、大動脈瘤に対するステントグラフト治療等や、各分野で拡大している血管内治療の推進を図っている。

### ○ 低侵襲な内視鏡手術実現に係る取組

「先端内視鏡手術センター」を設置しており、安全で確実、低侵襲な医療を開拓・確立・実施し、内視鏡手術を行うすべての診療科を統括し院内における内視鏡手術のガバナンスを担当するとともに、内視鏡手術のコンセプトや技術を若い医師に伝達教育するなど、内視鏡手術の実施体制を強化している。また、WHOが難病として取り上げている「難聴」を、内視鏡を用いて低侵襲で治療するための器具及び術式の開発を推進し、毎年150名程度の治療を行っている。

(運営面)

○ **未納債権の防止・減少に向けた収納体制の強化及び収益改善に向けた取組**

未納債権の防止及び減少のため、「未納債権マニュアル」を作成するなど収納体制を強化した結果、請求額に対する未収金額の割合が0.91%となり、目標（1%以内）を達成しているほか、附属病院の収益改善に向けて、中間決算に基づく経営状況及び損益見込み等を役員会で報告している。

平成28年12月6日  
山形大学

## 平成28年度科学技術人材育成費補助事業 「卓越研究員事業」における卓越研究員の決定について

文部科学省「卓越研究員事業」は、新たな研究領域に挑戦するような優秀な若手研究者が安定かつ自立して研究を推進できるような環境を実現するとともに、全国の産官学の研究機関をフィールドとして活躍しうる新たなキャリアパスを構築するため、平成28年度から開始したものです。

山形大学においては、本事業により、4名の卓越研究員を採用することが決定しました。優秀な若手研究者の採用により、研究活動の更なる活性化と拠点化を推進します。

### ■平成28年10月1日採用

募集研究分野：総合理工（研究分科）応用物理学  
准教授 松井 弘之（まつい ひろゆき）

募集研究分野：総合理工（研究分科）ナノ・マイクロ科学  
助教 富樫 貴成（とがし たかなり）

### ■平成29年1月1日採用予定

募集研究分野：総合（研究分科）人間理工学  
准教授 長峯 邦明（ながみね くにあき）

募集研究分野：総合（研究分科）環境解析学  
助教 黒澤 俊介（くろさわ しゅんすけ）

※科学技術人材育成費補助事業「卓越研究員事業」について詳しくは文部科学省のサイトをご覧ください。

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/jinzai/takuetsu/index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/jinzai/takuetsu/index.htm)

（お問合せ先）

総務部人事課人事担当

電話 023-628-4023

## 平成28年度 科学技術人材育成費補助事業

## 「卓越研究員事業」

○研究機関別の卓越研究員数一覧（平成28年10月末までに文部科学省に報告された者）

	機関名	卓越研究員数		機関名	卓越研究員数
1	北海道大学	2	25	大阪大学	3
2	室蘭工業大学	1	26	神戸大学	1
3	岩手大学	1	27	島根大学	1
4	山形大学	4	28	高知大学	1
5	茨城大学	1	29	九州大学	2
6	筑波大学	1	30	九州工業大学	1
7	宇都宮大学	1	31	佐賀大学	1
8	千葉大学	3	32	長崎大学	2
9	東京大学	6	33	熊本大学	3
10	東京医科歯科大学	1	34	鹿児島大学	1
11	東京農工大学	3	35	政策研究大学院大学	1
12	一橋大学	1	36	奈良先端科学技術大学院大学	1
13	横浜国立大学	1	37	大阪市立大学	1
14	長岡技術科学大学	1	38	東海大学	1
15	金沢大学	2	39	人間文化研究機構	1
16	福井大学	2	40	高エネルギー加速器研究機構	2
17	山梨大学	2	41	宇宙航空研究開発機構	1
18	信州大学	1	42	産業技術総合研究所	8
19	名古屋大学	2	43	物質・材料研究機構	1
20	名古屋工業大学	1	44	富士フイルム	1
21	豊橋技術科学大学	1	45	住友化学	1
22	滋賀医科大学	1	46	住友電気工業	1
23	京都大学	5	47	ソニーコンピュータサイエンス研究所	1
24	京都工芸繊維大学	2			

計 83名（47機関）

平成28年11月18日付文部科学省報道発表資料より

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/boshu/detail/\\_icsFiles/afieldfile/2016/11/18/1378456.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/boshu/detail/_icsFiles/afieldfile/2016/11/18/1378456.pdf)

平成28年12月6日  
山形大学

## 山形大学優秀教育者賞受賞者が決定しました

山形大学では、平成24年度から、教育活動の活性化と教員の意欲向上を図ることを目的に、教育や学生支援に貢献した教員を表彰しています。受賞者の選考は、「山形大学優秀教育者賞実施規程」に基づき、授業評価、企画活動、方法改善、社会・国際連携、普及・広報活動、学生支援といった多面的な指標を基準に行います。

5回目となる今年度は、19名の受賞者が決定しました。12月19日（月）に行われる授賞式では、学長から表彰状と賞金が授与されます。

### ◆平成28年度受賞者

荒木 志伸	伊藤 豊	奥山 正明	加々島 慎一
加藤 真理子	桑名 一徳	是川 晴彦	佐々木 綾子
佐藤 智	堤 誠司	津留 俊英	西岡 昭博
野々村 美宗	橋爪 孝夫	深澤 知	藤野 祐一
三浦 登志一	森岡 卓司	渡部 徹	(五十音順)

(参考) 平成24年度から28年度までの受賞者延べ数：114名

### 受賞理由（一部抜粋）

- 双方向型授業を進めるとともに、豊富な話題提供により学生の興味を引き出すなど、工夫を凝らした授業を行い、学生の授業評価アンケートでは継続して高評価を得ている。またフィールドワークでは、企画からコーディネート業務まで行い、積極的に学生支援活動に貢献している。
- 海外大学との学術交流協定締結や、海外短期研修プログラムの企画と実施に関わり、国際学術交流に対して大きな貢献を果たすとともに、全学英語教育への貢献が認められる。
- 小中学生の理科教育において山形県内教育界と連携して先駆的な取組を行うとともに、高校教育、大学教育、入学者選抜といった一体的改革に先鞭をつけ、地域との連携による教育等への多大な貢献を果たした。
- 卓越した学生指導力により高度な技能に優れた学生を育成、第4回及び第8回東京国際声楽コンクール全国大会において指導学生が上位入賞を果たした。

### ◆山形大学優秀教育者賞授賞式

日 時：平成28年12月19日（月）14時から

会 場：山形大学法人本部第一会議室

### (お問合せ先)

教育・学生支援部学務課

電話 023-628-4840

山形大学優秀教育者賞(授業評価、方法改善、企画活動、社会・国際連携、普及・広報活動、学生支援)の指標

区 分	評 価 項 目 等
<b>I-1 授業評価</b>	
1-1 学生目線	
1-1-1 授業アンケート	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生による授業改善アンケートの評価の値(総合的)の〇年間の平均値を算出し、それが〇〇以上であれば、学生からの評価が高い授業</li> <li>授業改善アンケートの結果、歴年の講義内容の改善度(アンケートの変化量)</li> </ul>
1-1-2 満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が受けてもっともためになった授業</li> <li>受けていてもっとも楽しかった授業</li> <li>学問への関心を最もそられた授業</li> <li>単位取得のために最も多くの(有意義な)努力を求められた授業</li> <li>自分の生き方や考え方に対して、強い影響力を与えてくれた授業</li> <li>教員の熱意を最も感じた授業</li> </ul>
1-1-3 推薦	<ul style="list-style-type: none"> <li>後輩始め他の学生にすすめたい授業</li> </ul>
1-2 教職員目線	<ul style="list-style-type: none"> <li>互選アンケートにより、プロの目から評価</li> <li>自薦により、外から見えにくい教育への寄与を顕彰</li> <li>新しい、あるいは困難な教育的取組に挑戦したこと</li> </ul>
1-3 卒業生目線	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業生からの教育内容に関する評価</li> </ul>
1-4 学外目線	<ul style="list-style-type: none"> <li>学外(社会)からの教育内容に関する評価</li> </ul>
1-5 客観的評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生の学習成果の客観的評価</li> <li>学会における学生の評価</li> <li>高度な専門職に優れた学生を輩出</li> <li>高い出席率(課題提出率・単位取得率)の維持</li> </ul>
<b>I-2 方法改善</b>	
2-1 教室内授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>よく工夫された授業</li> <li>教育の工夫、教育方法の革新</li> <li>講義における学生とのコミュニケーション</li> </ul>
2-2 テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書や講義資料の作成、他大学に採用される教材の作成</li> <li>学外(社会的)から評価される教材の作成、電子教材など先進的な教材の作成</li> <li>先進的な教材のための基盤技術、教材を作成する際の指針の作成</li> </ul>
2-3 連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数の講義科目間での連携(学期内・学期間)</li> <li>科目内での効率化のための企画・情報基盤の整備</li> </ul>
<b>I-3 企画活動</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学科独自の実習、デザイン授業など、学生アンケートで評価されにくい授業への寄与を評価</li> <li>教員間の教育に関する情報交換促進、若手(新任)教員などへの教育指導</li> <li>教育項目基準など統一的な教育マニュアルの作成</li> <li>多様性を維持するための企画</li> <li>模範的講義の実施やFD活動への寄与</li> <li>教育効率化のための企画</li> </ul>
<b>I-4 社会・国際連携</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>留学支援、留学生教育</li> <li>日本語教育及び外国語教育に関するFD活動、留学指導、外国人留学生の指導</li> <li>キャリア教育、倫理教育、出前授業など、学生や学科では評価されにくい授業への寄与を評価、顕彰</li> <li>地域との連携教育</li> </ul>
<b>I-5 普及・広報活動</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業などのカリキュラムには含まれないが、学生の教育への貢献が大であると評価される教員を表彰</li> <li>例えば5年以上の期間、継続している教育、啓蒙事業を行っている教員を表彰</li> <li>自分の講義内容についての普及活動(論文なども含む)</li> <li>山形大学の他教員の講義内容についての普及活動、</li> </ul>
<b>II 学生支援</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活・進路支援、課外活動指導</li> <li>フィールドワーク・課外活動における学生の指導</li> <li>身体に障がいのある学生に対する支援</li> <li>その他</li> </ul>



平成28年12月6日  
山形大学

## 教師教育における高大接続と市民によるプラットフォームづくり —第6回やまがた教員養成シンポジウムの開催—

12月18日（日）山形大学小白川キャンパスにおいて「第6回やまがた教員養成シンポジウム」を開催します。大学院教育実践研究科と地域教育文化学部は、公益財団法人やまがた教育振興財団とともに、東北文教大学を共催として、教師、教育研究者、行政関係者、さらには市民を巻き込んだ、教師教育の高度化に向けた議論のプラットフォームづくりを目的として、2011年より毎年開催してきました。

これまでの成果を踏まえ、今年度は、午前の部に県内の高校生と大学生の合同ゼミナールの様子を公開し、午後の部では、佐伯胖氏（東京大学名誉教授）と白水始氏（東京大学教授）をお招きし、「『学び』研究の履歴—これまでとこれから—」と題したセッションを行います。

### ◆企画の趣旨

「21世紀型の学校」「21世紀型の学び」等をキーワードとして、世界各国で30余年、新しい学びのあり方が問われ続けてきました。今、日本においても「アクティブ・ラーニング」というキーワードを中心に、新しい学び、授業、学校の在り方が模索され、大学入試改革にも連動し、小中学校から高校・大学に至るまでの一貫した動きとなっています。その鍵は「学びの質」です。

本シンポジウムは第一に「よりよく学ぶとはどのようなことか」に関する理解を深め、そのヴィジョンを共有することを目的としています。第二に、教育に関心をもつ県内の高校生をまきこみ、山形の教育を支える教師を地元の大学で育てる取り組みを強めようとするものです。

◆「学び」研究を振り返り、今後の展望を共有する—シンポジウム第二部（午後）—  
本シンポジウムの成果の一つとして、「学び」研究の成果を山形の市民に向けて広く公開してきた点にあります。山形大学では教職大学を中心として第5回のシンポジウムで今日の学習科学研究をリードする白水始氏（東京大学教授）の講演を通して「学び」研究の最前線を共有する機会をつくるなど、山形県内の教師教育の高度化に取り組んできました。今年度は、「学び」研究の履歴と今後の展望の共有を目的とし、認知科学者として長年「学び」研究を牽引してきた佐伯胖氏（東京大学名誉教授）と白水始氏（東京大学教授）との対談を行います。

### ◆学び手の声を聴く—シンポジウム第一部（午前）—

本シンポジウムは教師教育の高大接続の新たな試みでもあります。シンポジウムの第一部（午前）は「学ぶとはどういうことか」を論題としたゼミナールの過程を公開します。テキストは佐伯胖著『「わかり方」の探究』です。12月10日（土）11日（日）両日にプレ企画として合同ゼミナール第一回と第二回を行います。高校生や大学生の議論の内容、さらには、協同的な探究のスタイルを見ることを通して、よりよい学びについて参加者全員で考える機会とします。

### （お問合せ先）

学術研究院・准教授 森田智幸（教育学）  
E-mail: morita@e.yamagata-u.ac.jp  
電話 023(628)4396

# 第6回やまがた教員養成シンポジウム

## 第一部

＜大学生と高校生の合同ゼミ公開＞

10時～12時30分

学ぶとはどういうことか

コーディネーター：森田智幸(山形大学准教授)

## 第二部

＜対談＞

13時30分～16時00分

学び研究の履歴

—これまでと、これから—

東京大学 名誉教授

田園調布学園大学 教授

佐伯 胖 氏



東京大学高大接続研究開発センター 教授

東京大学CoREF 機構長

白水 始 氏



# 12月18日(日)

山形大学  
小白川キャンパス  
基盤教育1号館

＜教師教育の高大接続の新たな形＞

県内の高校生をまきこみ、山形の教育を支える教師を  
地元の大学で育てる取り組みです。



認知科学の領域で  
「学び」研究を牽引してきた  
研究者です。

履歴と最前線に  
同時に会えます！

今日の学習科学研究を  
リードする研究者です。



第6回やまがた教員養成シンポジウム

# 「学び」を 問い続けて



主催：山形大学大学院教育実践研究科  
山形大学地域教育文化学部  
公益財団法人やまがた教育振興財団  
共催：東北文教大学

## 第一部

＜大学生と高校生の公開合同ゼミ＞

10時～12時30分

### 学ぶとはどういうことか

コーディネーター：森田智幸

(山形大学准教授)

\*高校生と大学生による議論をもとに、  
参加者全員で「学び」について考えます。

# 12月 18日(日)

## 10時～16時00分

会場：山形大学小白川キャンパス  
基盤教育1号館

## 第二部

＜対談＞

13時30分～16時00分

### 学び研究の履歴

—これまでと、これから—

東京大学 名誉教授

田園調布学園大学 教授

## 佐伯 胖 氏



東京大学高大接続研究開発センター 教授

東京大学 CoREF 機構長

## 白水 始 氏



## ＜申込方法＞

◆参加費は無料です。参加を希望する方は、以下のメールまたは FAX に氏名と所属と連絡先、第一部・第二部の参加について記入の上、申し込んでください。

◆締切は2016年12月14日(水)です。

◆定員は150名です。申込締切前に定員に達した場合は、その時点で受付を締め切ります。あらかじめご了承ください。

◆当日申し込みも受け付けておりますが、定員の関係上、会場に入れない可能性もあります。

◆第一部は9時30分、第二部は13時より受付を開始します。

◆ご来場の際には、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

問い合わせ先

山形大学地域教育文化学部事務室総務担当

TEL: 023(628)4304

FAX: 023(628)4313

E-mail: kyosoumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

## プレ企画ゼミ「学ぶとはどういうことか」※高校生対象

日時：12月10日(土)・11日(日)

両日ともに13時から16時半まで

場所：小白川キャンパス基盤教育1号館

※参加希望の高校生はお問い合わせください。

学ぶとはどういうことか

高校生と大学生で議論します。



送信先:山形大学地域教育文化学部事務室総務担当 宛

FAX: 023-628-4313

## 第6回 やまがた教員養成シンポジウム

# 「学び」を問い続けて

- ◆ 上記シンポジウムに参加ご希望の方は、本申込書に記入の上、上記へFAX願います。

申込締切:平成28年12月14日(水)

### 参加申込書【FAX専用】

氏名(代表者)	職業(ご所属)(代表者)
連絡先	電話番号
住所	E-Mailアドレス
午前のみ参加 ・ 午後のみ参加 ・ 午前午後ともに参加 ※いずれかに丸をつけてください。	
氏名	職業(ご所属)
連絡先	電話番号
住所	E-Mailアドレス
午前のみ参加 ・ 午後のみ参加 ・ 午前午後ともに参加	
氏名	職業(ご所属)
連絡先	電話番号
住所	E-Mailアドレス
午前のみ参加 ・ 午後のみ参加 ・ 午前午後ともに参加	

\*お申し込みの際にいただいた個人情報は、本会のみ利用させていただき、それ以外の目的での利用はいたしません。また、本会開催後に破棄させていただきます。

平成28年12月6日  
山形大学

\* 詳細は別添の資料をご覧ください。

## 1. 山形在来作物研究会公開フォーラムのお知らせ

最近、全国的に、地域資源としての在来作物が注目されるようになりました。しかし、在来作物がいかに貴重な資源であっても、ある程度の量の消費が保障されなければそれらの生産は安定しません。すなわち、「売れること」が「保全すること」に直結しているといえます。本フォーラムでは、県内各地域における具体的な取り組みの事例を通して、在来作物の商品化への知恵と工夫について考えてみたいと思います。

テーマ：「在来作物を売る－商品化への知恵と工夫－」

日時：2016年12月10日（土） 13:30～16:30

会場：山形大学農学部301講義室

## 2. 「知の拠点庄内」第6回シンポジウム 海外からみた庄内～SHONAIはいいのお～

庄内地域の4つの高等教育・研究機関が知を結集し、立ち上げた「知の拠点庄内」。第6回目のシンポジウムを下記のとおり実施します。

日時：2016年12月18日（日） 13:30～15:50

会場：鶴岡市先端研究産業支援センター（鶴岡メタボロームキャンパス）レクチャーホール

## 3. 大学を通じた地方創生～山形の「知・技術・ひと」の融合による産業イノベーション～

日本学術会議東北地区会議との共催により、講演会を開催します。

日時：2016年12月13日（火） 13:00～16:30

会場：小白川キャンパス基盤教育2号館221講義室

問合せ：日本学術会議東北地区会議事務局（東北大学研究推進部研究推進課内）

022-217-4840

※これまでの定例会見でお知らせしたもので、開催が迫っているイベント

### ◎若手研究者のための機能性材料シンポジウム2016

機能性材料をキーワードに、フォトニクス材料、錯体化学、放射光科学の分野で活躍する若手研究者が山形に集まり、最先端の研究成果を発表します。

日時：平成28年12月8日（木）13:00～9日（金）12:00

会場：理学部3号館A201、A202

問合せ：学術研究院・助教 石崎 学（金属錯体化学）tel. 023-628-4478

## ◎山形大学キャンパスコンサート 2016

今年度は音楽芸術コースの学生及び大学院生が、長井市出身の紺野陽吉の作品、民話を題材としたオペラ、ピアノ連弾という三つのプログラムを用意しました。(会場：山形大学文化ホール、入場料：無料)

・第3回 2台ピアノの饗宴 - 6人で奏でる名曲の調べ

平成28年12月10日(土) 13:00～

## ◎第44回模擬裁判公演「日常～それはしつけですか?～」

山形大学模擬裁判実行委員会は、年に1度、模擬裁判という裁判劇の公演を行い、研究成果を発表しています。今年、とある母子家庭を舞台に「児童虐待」を描きます。

日時：12月9日(金) 17:30開場/18:00開演

12月10日(土) 14:30開場/15:00開演

場所：山形市中央公民館(a z 七日町6階)

料金：前売り券250円/ 当日券300円(高校生以下は無料)

## ◎社会人力育成山形講座 総括フォーラム

文部科学省平成24年度「大学間連携共同教育推進事業」採択事業「美しい山形を活用した『社会人力育成山形講座』の展開」の取り組みについての成果報告会として、「山形講座から見えてきた大学教育と次世代育成」と題した総括フォーラムを開催します。

日時：平成28年12月16日(金) 13:00～17:00

会場：ホテルメトロポリタン山形 3F「出羽」

対象：一般、県内の学生・教育関係者、県内企業関係者(参加無料)

## ◎スライムマイスターJr.特別教室

今年度から開催した小学生対象の新企画「めざせ!スライムマイスターJr.」の教室に3回出席した人を対象とした特別教室を実施します。この特別教室に参加した小学生のみなさんには、「スライムマイスターJr.」の証明書が交付されます。

日時：平成28年12月17日(土) 10:00～12:00

会場：山形大学小白川キャンパスSCITAセンター

講師：スライムマイスター

対象：「めざせ!スライムマイスターJr.」として開講された教室に3回出席した小学生(25人)  
(SCITAセンターから招待状を送付します。)

平成28年12月6日  
山形大学

## 山形在来作物研究会公開フォーラムのお知らせ

山形在来作物研究会※では毎年公開フォーラムを開催しておりますが、今年は「在来作物を売る－商品化への知恵と工夫－」（主催：山形大学農学部、共催：鶴岡市、山形在来作物研究会）をテーマに12月10日（土）に農学部で開催することになりました。

最近、全国的に、地域資源としての在来作物が注目されるようになりました。しかし、在来作物がいかに貴重な資源であっても、ある程度の量の消費が保障されなければそれらの生産は安定しません。すなわち、「売れること」が「保全すること」に直結しているといえます。本フォーラムでは、県内各地域における具体的な取り組みの事例を通して、在来作物の商品化への知恵と工夫について考えてみたいと思います。

山形在来作物研究会公開フォーラム2016

「在来作物を売る－商品化への知恵と工夫－」

主 催：山形大学農学部

共 催：鶴岡市、山形在来作物研究会

日 時：2016年12月10日（土）13：30～16：30

場 所：山形大学農学部301講義室

入場料：無料

※「山形在来作物研究会」とは

山形大学農学部の教職員有志により2003年に設立。山形県各地に古くから伝えられてきた在来の作物とその文化を 調査・保存・活用し、これからの豊かな暮らしづくりの支えになりたいと活動している。2015年には、食文化の興隆による鶴岡市の振興発展に貢献したことが評価され、「鶴岡市市制施行10周年特別表彰」を受ける。「在作研公開フォーラム」は、会発足時から開催している。

（お問合せ先）

学術研究院 准教授

小笠原 宣好（観賞植物学）

電話 0235-28-2830

# 在来作物を売る —商品化への知恵と工夫—

在来作物は地域の宝です。最近、全国的に、地域資源としての在来作物が注目されるようになりました。しかし、在来作物がいかに貴重な資源であっても、ある程度の量の消費が保障されなければそれらの生産は安定しません。すなわち、「売れること」が「保全すること」に直結しているといえます。

在作研公開フォーラム2016では、「在来作物を売る」をテーマに、県内各地域における具体的な取り組みの事例を通して、在来作物の商品化への知恵と工夫について考えてみたいと思います。

日時：2016年12月10日（土） 13:30～16:30

会場：山形大学農学部301講義室

（鶴岡市若葉町1-23）

入場は無料で申し込みの必要はありません。

●開会あいさつ（13:30～13:40）

●事例報告（13:40～15:00）

- ・村山 山形の伝統野菜を販売する！ グリーンショップはらだ 山口美香氏
- ・最上 最上伝統野菜を流通させるしくみ もがみ物産協会 津藤真知子氏
- ・置賜 野菜米沢伝統野菜を食べてもらう Dining海豚元店長 佐藤純氏
- ・庄内 「おしゃべりな畑 実践講座」 - 在来作物案内人たちの挑戦 -
  - ①だだちゃ豆のふりかけ「だだちゃん」 齋藤至氏
  - ②庄内柿のみそ玉 山口美和氏
  - ③升田かぶの生産と販売 村上正敏氏
  - ④外内島きゅうりの生産と販売 阿部正一氏

●休憩（15:00～15:20） 在来作物やその加工品の試食を行う予定です。

●パネルディスカッション（15:20～16:25）

「在来作物を売る - 商品化への知恵と工夫 - 」

パネリスト

コーディネーター

事例報告発表者

山形在来作物研究会会長 江頭宏昌氏

●閉会あいさつ（16:25～16:30）







庄内地域には、地方としては全国的にも珍しく、4つの高等教育・研究機関が集積しています。これらの機関が知を集結し、「知の拠点庄内」を立ち上げました。

このシンポジウムでは、地方創生といった視点から、4つの高等教育・研究機関の教員が庄内の未来へ向けた地域創りについて講演します。



**「知の拠点庄内」 第6回 シンポジウム**

**海外からみた庄内 ~SHONAIはいいのお~**

日時 ● 平成**28**年**12**月**18**日(日) 13:30~15:50 (開場12:30~)

場所 ● 鶴岡市先端研究産業支援センター (鶴岡メタボロームキャンパス) レクチャーホール (鶴岡市覚岸寺水上246-2)

主催: 「知の拠点庄内」ワークショップ委員会  
 共催: 鶴岡市・酒田市  
 山形大学農学部・慶應義塾大学先端生命科学研究所・鶴岡工業高等専門学校・東北公益文科大学(事務局)



**講演**  
13:30-14:55

**「僕らの国籍はサイエンスである」**

ガリボン ジョゼフィーヌ 氏 (慶應義塾大学先端生命科学研究所 特任助教)

**「Shonai－Untapped Opportunities ～庄内－秘めたる機会～」**

ジハン シャザダ ナイヤール 氏 (東北公益文科大学 教授)

**「庄内暮らし4年生」**

金 帝演 氏 (鶴岡工業高等専門学校 創造工学科情報コース 助教)

**「庄内の暮らし、海外の暮らし」**

網干 貴子 氏 (山形大学農学部 植物機能開発学コース 助教)

**ディスカッション**  
15:05-15:50

パネリスト／講演者 4名

コーディネーター／武田 真理子 氏 (東北公益文科大学 教授)

● **入場無料** (入場は無料ですが、事前申し込みが必要です)

● **定員・150名程度** (定員になり次第、締切とさせていただきます)

● **申込先**

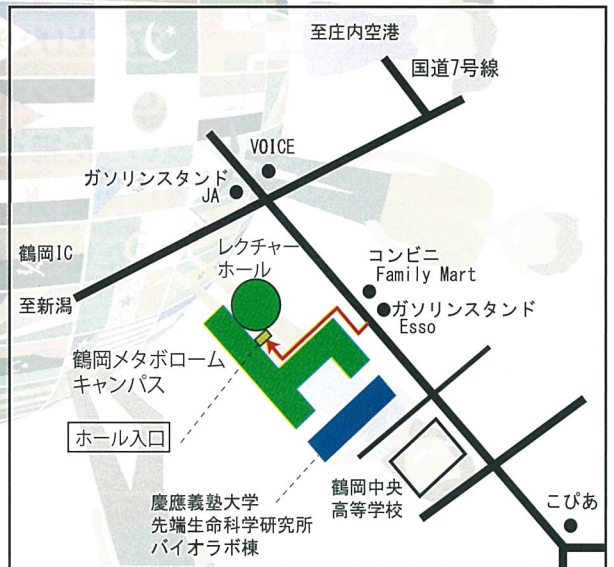
- ・東北公益文科大学 大学院事務室  
Tel 0235-29-0555 Fax 0235-29-0556  
E-mail gs@koeki-u.ac.jp
- ・鶴岡市役所 政策企画課  
Tel 0235-25-2111 内線 525・526 まで

● **締切**

**12月15日(木)**

※ファックスでお申し込みの方は、下記に必要事項をご記入をご記入の上、  
FAX 0235-29-0556 へ送信してください。

※E-mailでお申し込みの方は、下記情報を記載の上、gs@koeki-u.ac.jp  
あてに送信してください。



**12/18 「知の拠点庄内」第6回シンポジウム 参加申込書 (FAX0235-29-0556)**

●お名前(フリガナ)

●E-mail アドレス

@

●お電話番号

●FAX番号

●参加人数(複数人でご参加の場合、ご記入ください)

人

ご記入いただいた個人情報は、シンポジウムご参加に関する手続きのみに利用し、第三者には開示・提供・預託することはありません。

**地方  
創生**

山形の「知・技術・ひと」の融合による産業イノベーション

# 大学を通じた地方創生

日時 / 平成28年 **12.13** [火] 13:00~16:30

場所 / 山形大学小白川キャンパス  
基盤教育2号館221講義室  
(山形市小白川町1丁目4-12)

次第 /

- 1 開会挨拶 [13:00~13:10]  
小山 清人 (山形大学 学長)
- 2 主催者挨拶 [13:10~13:20]  
庄子 哲雄 (日本学術会議第三部会員・東北地区会議代表幹事、東北大学未来科学技術共同研究センター 教授)
- 3 日本学術会議会長挨拶・基調講演 [13:20~14:10]  
「オープン化時代の大学の役割と科学研究の進路」  
大西 隆 (日本学術会議会長・第三部会員、豊橋技術科学大学学長、東京大学名誉教授)
- 4 講演会 [14:10~15:50]  
「有機材料システムの活用による産学官連携のイノベーション」  
城戸 淳二 (日本学術会議連携会員、山形大学学術研究院 教授(有機材料システム研究科担当)、有機材料システムフロンティアセンター長)  
「地域特産果樹と収穫後管理と品質」  
村山 秀樹 (山形大学学術研究院 教授(農学部担当)、農学部副学部長)  
「地域社会×国立大学×女性活躍=山形の豊かな未来」  
河野 銀子 (日本学術会議連携会員、山形大学学術研究院 教授(地域教育文化学部担当))
- 5 質疑応答 [15:50~16:20]
- 6 閉会挨拶 [16:20~16:30]  
木村 直子 (日本学術会議連携会員、山形大学学術研究院 教授(農学部担当))

**入場無料**  
**先着200名**

どなたでもご参加できます



JR山形駅から東方へ約2km。山形駅から「山形県庁」行きバスで山形南高前山大入口下車(約7分)、徒歩7分。  
※徒歩の場合はJR山形駅から約35分。



**駐車場のご用意ができませんので、自家用車でのご来場をご遠慮願います。**

参加申込方法

参加人数把握のため事前申し込みをお願いします。当日受け付けも可能ですが、事前にお知らせ頂けると幸いです。FAX(チラシ裏面様式)または、メールにてお願いします。平成28年12月6日(火)までお申込み下さい。

FAX:022-217-4841 メール:※kenkyo@[ ]grp.tohoku.ac.jp

氏名・参加人数・所属組織、団体等・ご連絡先(TEL・Eメール)をご記入ください。  
(日本学術会議 東北地区会議事務局/東北大学 研究推進部 研究推進課内)

お問合せ先

日本学術会議 東北地区会議事務局  
(東北大学 研究推進部 研究推進課内)  
TEL:022-217-4840

※参加申し込み完了のご連絡や入場券等の発行はいたしませんので、当日直接会場にお越し下さい。

主催 / 日本学術会議東北地区会議 共催 / 山形大学 後援 / 山形県立保健医療大学、山形県立米沢栄養大学、山形県立産業技術短期大学校、山形県立農林大学校、山形県立米沢女子短期大学、東北芸術工科大学、東北公益文科大学、東北文教大学、羽陽学園短期大学、東北文教大学短期大学部、慶應義塾大学先端生命科学研究所、鶴岡工業高等専門学校、放送大学山形学習センター、山形県、山形市、山形県教育委員会、山形市教育委員会、日本貿易振興機構(ジェトロ山形)、山形県農業総合研究センター、山形県工業技術センター、公益財団法人山形県産業技術振興機構、朝日新聞山形総局、毎日新聞山形支局、読売新聞山形支局、日本経済新聞社山形支局、産経新聞社山形支局、河北新報社、共同通信社山形支局、時事通信社山形支局、山形新聞・山形放送、荘内日報社山形支局、米澤新聞社、日刊工業新聞 山形支局、NHK山形放送局、NHK山形テレビ、株式会社山形、株式会社らんぼテレビジョン、株式会社パーシティブメディア